

# 釜ヶ崎

一九八二年冬

キリスト教釜ヶ崎越冬委員会



病気を追う

越冬活動のシンボルともいえる夜間のパトロールは、「医療パトロール」と呼ばれている。厳冬期に野宿せざるをえない人びとを訪ね、身体の具合を聞き、医療の相談などをする。これが越冬期間中、連日繰り返されてきた。

日雇労働者が使い捨てられていくありさまが、釜ヶ崎ではよく見えてくる。当然受けるべきごく当然の暮らしが保障されず、さまざまな「病気」を担わせられていく。私たちは、越冬活動やそれに続く医療相談、病院訪問などの活動のなかで、この「病気」を追い、それが癒されることを祈り求めてきた。

最近、この活動を共にしてきた仲間から、はからずも、三人が療養を余儀なくされてしまった。とくに、専従として事務局を背負ってくれた土井美保子さんが病いに倒れたのはショックなことである。皆と共に回復を祈りたい。

さて、キリスト教釜ヶ崎越冬委員会は、態勢を整え直して、再び「病気」を追い続けようとしているのだが……。

前島宗甫

もくじ

<巻頭言>前島宗甫 1  
 第13回釜ヶ崎越冬闘争支援を終えて 2  
 越冬日録(1982-1983) 4  
 釜ヶ崎の状況「白手帳」をめぐる 10

座談会

「横浜事件」が、我々に教えたもの 12

随想 釜ヶ崎とわたし

苦勞する人、重荷を負う人は…H. ルカス 20  
 精一杯生きる人たち …… 西上真澄 21  
 通天閣 …… 早坂博子 22  
 Mさんへの手紙 …… 詫摩 良 23

活動報告・人はパンだけで…入佐明美 25

1983年の越冬に向けて

キリスト教越冬委員会は発展的解散・  
 釜ヶ崎協友会一本にまとまる 26  
 キリスト教釜ヶ崎越冬委員会の軌跡 30

第7回越冬セミナー日記 32

セミナー参加者の感想 36

李宣協、中村恵子、梅田修平

グラフと越冬呼びかけ

1982年度炊き出し利用者数 38  
 青カン者数と現金求人就労状況 39  
 1982年度越冬呼びかけ 40~43

編集後記 44

# 第13回釜ヶ崎越冬闘争支援を終えて

## 一 はじめに

一九八二年十二月、整備された釜ヶ崎の町、日本の経済の高度成長に身を張ってきた日雇労働者が環境浄化の的にさらされながら冬を迎えました。

第13回釜ヶ崎越冬闘争が始まり、これに釜ヶ崎協友会（この地に各施設をもって労働者と関っている七つのキリスト教のメンバー）と関西キリスト教都市産業問題協議会で組織したキリスト教釜ヶ崎越冬委員会が第九回の越冬活動として労働者が組織する第13回釜ヶ崎越冬闘争実行委員会の諸活動を支援してきました。

## 二 釜ヶ崎の不況

今年「労働者に働く場を」と言うテーマを持って支援活動に入りましたが不況つづきの中で日雇労働者の失業者の数が増え、とくに高齢者・病弱者・身障者など働けなくなった労働者に対する福祉が十分に行われず、青カン（野宿）を余儀なくされます。また労働者のしめつけの一つに「就労申告書」の廃止を、「あいりん職安」が大府労働部の命令を受け打ち切る通告をしました。またこの不況に乗じ金融業者が増えおびらに営業を始め、労働者に「白手帳」（日雇労働被保険者手帳）を担保に高利で貸付け、労働者が「あいりん職業安定所」に「アブレ手当」を取りに行く際、金融業者から一時「白手帳」を借り出し、職安

に「つけ馬」と共に並び手当を受け取り返済すると言う異様な状況が見られます。

## 三 差別

昨年十二月から二月にかけて横浜の日雇労働者の町、寿町周辺の公園や地下街などで寝ていた日雇労働者が三名殺され、十三名が重軽傷を負される事件が「浮浪者狩り」として少年のグループの遊びの対象とされました。この事件は明らかに日雇労働者に対する差別としての社会意識の表れでないでしょうか。この事件後「青カン実態調査」によって釜ヶ崎にも日雇労働者が少年、通行人らに暴行を加えられていたことがわかりました。このように弱い者に対する差別、「あいりんクリーン作戦推進」の美名の裏にある行政の方針に対し私たちは日雇労働者と共に要請し、闘いを継続しているのです。

## 四 行政への要請

私たちは毎回越冬を迎えるにあたって労働行政に、日雇失業対策を要望して来たが、とくに日雇労働者の高齢化、老人層の増大が進んでおり、なお労働災害やその他による障害者、病弱者の生存が窮地に追い込まれているのが現実です。これらの問題は釜ヶ崎に限ったことではないのですが、日雇労働者の立場から、釜ヶ崎の労働者においては最も苛酷な境遇におかれています。

したがって――

一、高齢者、障害者など重労働不能層のため特別就労対策として、

・軽作業希望者に就労を保障すること。

・高齢者、障害者など就労困難労働者の公共事業への優先吸収対策を具体化すること。

二、釜ヶ崎全体の失業対策の要請。

・公共事業の特出。

・日雇失業保険金の悪質化を防ぐ対策を具体化する。

三、就労申告書制の復活。

・全業者の雇用保険加入実現の要請。

これらの要請に対して「あいりん労働福祉センター」の窓口から極く僅かでしたが、軽作業の紹介がありました。不況は依然として続き、福祉の切り捨てで日毎に青カン者が増しているさびしさです。

## 五 医療パトロール

前半 十二月二十五日夜十時より夜間医療パトロールが労働者グループにより行われました。医療センター前に布団を敷きつめ青カン者を保護し警備班をおき、一晚中労働者を守り、救急医療に当ります。翌朝、点検し病弱者を診察に同伴し、また仕事に行く者にはオニギリを配りました。今年は何人かの医師も参加、医療面に力強い支援となりました。

後半 私たちは一月十五日より深夜一時より多くの支援者の参加と共に医療パトロールを行いました。センター前に保護することの出来ない痛みをおぼえながらも、次々と送られた毛布、衣類、カイロを手渡すことが出来ました。

パトロールに参加、支援して下さった方は延べ八百名を越え、カンパ、物品共に私たちの予想外の支援を心から感謝致します。

## 六 炊き出し

炊き出しの会では年間を通して、一日二食の炊き出しを行っています。とくに越冬期間十二月一日から二月二十八日まで、一日三食。朝九時・昼一時・夜七時に公園で行いました。この間の総利用者数は、二万七千五百一十八食となり、とくに一月三日には七三六名の労働者が炊き出しに並びました。

また、労働不能、病弱者として生活保護の適用を求めて大阪市立更生相談所に行った人の八割強がこの適用を却下されたのです。

今年も一人の死者も出さなぐを目標とした越冬闘争でしたが、路上での凍死、病死した労働者は二十四名を数えました。

## 七 おわりに

さて、私たちキリスト教釜ヶ崎越冬委員会は九回の越冬活動を行ってきました。正直なところ、私たちの活動がこれほど大きな拡がりを見せるとは予想できませんでした。

このときにあたって私たちは、過去の活動と組織を総括検討し、新しい歩みを求めることを始めました。別稿で述べられていきますからお読みいただき、ご理解をいただきましたと思います。

いづれ組織を新しくして、「第十回目」の活動を始めた」と願っています。ぜひ覚え、ご支援くださいますように。

第十三回越冬闘争は「一人の死者も出さな」「釜ヶ崎の労働者に生きる場を」スローガンに始まった。



# 越冬日録

一九八二～一九八三

一九八二年

11月6日

13日

第一回越冬委員会 代表 シスター岡風呂  
 八二年度越冬支援交流会がふる里の家にて開かれた。参加者は三十一名。内容は、越冬委員会を構成している各団体の働きの説明、入佐さんの話し（労働者との関わりの中で学んだこと）であった。その後、参加者から昨年の越冬支援についての意見、感想を聞き、今越冬支援を始めるにあたり参考にした。

第二回越冬委員会

今年のスローガンを以下のように決めた。

一、一人の死者も出さな

二、釜ヶ崎の労働者に生きる場を

—わたしの問題です—

私たちは、今まで主として「結核」の問題に目を向けてきたが、今後、根本の問題である「労働」に目を向けていくことを話し合った。  
 釜日労・医療班が主催し、「秋の医療週間」を設定した。今回は、「障害者」「高齢者」に仕事を保障することを目的とし、西成労働福祉センターに軽作業の斡旋を行うよう要求した。軽作業保障に関しては、今越冬の一つの柱として取り組むことを決めた。

第三回越冬委員会

今年度の活動方針を以下のように定めた。

20日

20~15日

11月27日

12月3~29日

12月1日

6~2日

- 労働者に仕事を
- 健康相談室の開設
- 炊き出しの支援
- 越冬セミナーの開催
- 年間を通じて活動を進めている二人の専任者の支援

第四回越冬委員会 事務所が喜望の家から旅

路の里に移ることが決まった。

十二月二十六日からの夜間医療パトロールのため、予備パトロールを行った。

昨年と異なるのは、北回りは特に、青カンができないよう、道路端には木を植え、軒下になるような所には、セメントで壁をつくってある。また、金網をわざわざ張りめぐらせてある所もある。クリーン作戦の一環。

釜ヶ崎地域合同労組が、今日より二月末まで越冬闘争を闘かう。

朝九時・昼一時・夜七時の一日三食の炊き出しを供給する。朝九時の炊き出しの後、医療券を発行し、午前中は医療センターへ引率し、診察中は待機する。午後は、市更相での相談結果を確認し、却下された人については、再び相談に行くよう励ます。

カンパ要請ビラ、約4000通を発送した。  
 今年のカンパ目標額は800万円。

12月4日

第五回越冬委員会

4日  
5日

大阪府より冬期一時金（モチ代）が支給された。今年は昨年より700円増の9900円。山谷や横浜寿町では、釜ヶ崎の三倍ほどの一時金が支給されているとか。

8日

第十三回越冬闘争実行委員会（越冬実）が、大阪府労働部・土木建設部に要望書を提出した。十二月十三日までに回答を出すように要請した。越冬委員会も要望書に連名した。要望書の概要は以下のとおりである。

(1) 高齢者、「障害者」等重労働不能層のための特別就労対策の要請

(2) 釜ヶ崎全体の慢性アブレ状態に対する対策の要請

(3) 就労申告書復活、全業者雇用保険加入実現の要請

11日

第六回越冬委員会 夜間医療パトロール、越冬セミナーについて話し合う。

越冬実、越冬委員会連名で、大阪市民生局に要望書をもっていた。要望書の内容は以下のとおり。

- (1) 釜ヶ崎の高齢者、「障害者」の「就労と生活」再建のために市がなすべき対策を明確にせよ。
- (2) 「アル中」や「入退院歴」を名目とする切り捨て、保安処分をやめ、併せて、ケタオチ精

16日

12月15日

18日

22日

23日

25日

26日

神病院、生き埋め老人病院への収容政策をやめろ。

(3) 臨泊の隔離収容政策をやめろ。

臨泊から鉄条網、機動隊、ガードマンをなくせ。

友人、知人の訪問者を入れろ。

越冬闘争実行委員会一視察団を入れる。

困窮者を優先させろ。

臨泊を拡大し、仕事が出なくなるまで延長せよ。

越冬委員会の事務所が、旅路の里に移った。

第七回越冬委員会

越冬実が主催し、市民館で越冬支援連帯集会が開かれた。参加者八十名。

大東市にある結核専門である阪奈病院に、クリスマスプレゼント（靴下）を持っていった。

越冬実が三角公園で越冬突入決起集会を開いた。集会内容は、釜ヶ崎越冬実から基調提起、医療班、労働争議班、パトロール班等からの報告、全国寄せ場の越冬闘争取り組み報告、支援連帯アピール等。

第八回越冬委員会 夜間医療パトロールについて話し合った。

本日より一月十六日まで第十三回越冬闘争が闘われる。

一日程

30 29  
日 日

12月28日

朝 5時 ふとんあげ（医療センター前）。  
 医療相談者のためのおにぎりづくり。  
 7～9時 医療・労働相談（医療センター前）。  
 9～12時 医療センターで受診の間待機する。  
 13～16時 大阪市立更生相談所（市更相）で相談結果を確認する。  
 20時 ふとん敷き  
 22～24時 夜間パトロール。  
 0～5時 シノギ（路上強盗）対策のため、青カン者の警備。  
 越冬委員会は、曜日毎に責任者を決め、パトロールを支援する。  
 本日も未明、医療センター前に敷いているふとんの中で、通称「カワサキ」さん（48歳）が死亡した。ふとんあげの時、様子がおかしいので、救急車を呼び山本第一病院に送ったが着いた時にはもう手遅れだった。ガッチリした人でいい働き人だった。カワサキさんは、今年四月から八月上旬まで大和中央病院に入院していた。翌日、医療センター前で追悼集会がもたれた。  
 大阪市が行う越冬対策、臨時宿泊所（南港、自彊館）の受付が行われた。宿泊所入所のため、白手帳の有無を基準とした二重三重の面接は、本当に困った労働者の入所を認めない。昨年の入所者数は一九八三名、今年は一三八六名

12月30日

31日

一九八三年

1月1日

3日

1月2日

1月3日

1月4日

1月5日

と、約三割減である。それも、一月一日～三日の間、市更相が休みのため越冬実が自彊館前で交渉し、二四八人が入所できたにもかかわらずの人数である。来年は、ますます切り捨てが激しくなるであろうと予測される。

越冬実医療班が、支援の医者と共に自主診療日を設定し、釜ヶ崎地区内をパトロールし、医療相談に応じた。

臨時宿泊所が開設されているにもかかわらず、本日の青カン者数は三三〇人を記録した。

釜ヶ崎地域合同労組がもちつき大会を行った。

第八回越冬セミナーが開かれた。テーマは「釜ヶ崎の労働」参加者は十二名。（32 P参照）越冬実が主催し、三角公園で新春団結もちつき大会が行われた。朝九時から、二千名にのぼる労働者がぞくぞくと集まり、むしあがる2俵のもち米をかわるがわるつきあげた。「憂歌団」というバンドの応援もあり、熱気に満ちていた。

越冬実主催、ソフトボール大会が東大阪のグラウンドをかり行われた。六十五名が集まり、六つのチームに分け、熱戦がくり広げられた。

越冬実が、大阪府庁へ抗議行動を行った。越冬実が主催し、「反保安処分集会」を市民



1月6日

8日

12日

15日  
16日

館で開いた。参加者は約一〇〇名。集会は、泉州病院・竹村医師から現在の精神病院の実態、特にアルコール依存症について話された。アルコール依存症の問題に関しては、多くの労働者からの質問や意見があり、このような集会の必要性を感じさせられた。

越冬実・医療班が二回めの自主診察を行った。第九回越冬委員会 越冬セミナーの反省等を行った。

五日につづき、二回めの「反保安処分集会」が開かれた。

初めて、五名の軽作業希望者が、センター紹介課で求職した。高齢者（66歳、63歳）ほど職に就きにくいし、業者にハッキリと腰が悪いというと業者がしぶったりで、センター紹介課も大わらわであった。前途多難だが必要な取り組みである。越冬委員会も作業着、長靴のカンパを呼びかける等、軽作業保障についての支援を行った。

#### 第十回越冬委員会

本日より二月末まで、越冬委員会が中心になり深夜一時から二時間程、医療パトロールを行う。自転車二、三台に毛布、オーバー、使い捨てカイロ等を積み、必要な人に配る。また、医療相談が必要な人については、越冬委員会事務所の地図を書いたカードを手渡し、入佐さんにア

1月22日

24日

26日

28日

29日

30日

2月1日

フターケアーをお願いするよう日誌に記入する。ただちに保護が必要な人については救急車を呼ぶ。飲み薬は副作用が心配されるため使用しないようにし、外科の傷薬等を持ってパトロールを行う。一月中は、越冬実の支援がある。

#### 第十一回越冬委員会

障害があり生活保護を受けたいSさんとTさんのため、アパートの権利金5万円を越冬委員会と貸与することに決めた。Sさんは、視覚障害一級一種取得者であり、以前、自彊館にいたが集団生活になじまず、退寮し、その後、青カンを生活を強いられている。Tさん（71歳）は、身体は一応健康だが、両方の耳の鼓膜が破れている（一種三級）。働きたいと思いつ、飯場に行くが高齢で雇ってくれない。今後も、生活保護受給者のため、越冬委員会と20万円の福祉基金をもつことを決めた。

パトロール中に、三角公園の南海天王寺線付近で倒れていた労働者が、山本第一病院に運ばれると同時に亡くなった。

#### 越冬実が市民館で総括集会をもった。

夜間パトロールに行く二〇分程前に、一人の労働者が亡くなった。

#### 第十二回越冬委員会

三角公園で、鹿児島県出身、通称「同心」とよばれていた労働者が亡くなった。

伊丹市にある飯場が全焼し、労働者二人が亡

28日	28日~26日	26日	22日	19日	12日	6日	2月5日
深夜医療パトロールに参加するグループが曜日毎に定着し	横浜寿町でいわゆる「浮浪者」殺傷事件についてのシンポジウム、役所への抗議行動が計画されており、越冬委員会から二名が参加した。	二月以降も引き続き行うか、どうかについて討議した。	越冬委員会とつながりの深かったAさんが、大和中央病院で亡くなった。	第十五回越冬委員会 越冬支援総括集会について、横浜寿町で起きた日雇労働者連続殺傷事件について話し合う。寿町の事件について、越冬委員会から朝日新聞「声」欄等に投稿することが決まった。	第十四回越冬委員会	釜ヶ崎越冬支援中間報告集会を日本キリスト教団阿倍野教会を会場に行った。参加者約八〇名。集会内容は、越冬実・炊き出しの会、越冬委員会、名古屋笹島での越冬の取り組みの報告の後、港湾日雇労働者として長い間働いてこられた平井さんの講演でしめくくられた。	第十三回越冬委員会 中間報告集会について話し合う。

4月3日	4日	19日	18日	12日	9日	7日	6日	3月5日
宝塚売布にある黙想の家で、越冬委員会の今後について話し合った。		第十八回越冬委員会	早坂さんとルカ神父の送別会が開かれた。	釜日労・争議団が主催し、「横浜の日雇労働者差別―虐殺事件糾弾少年らを虐殺にかりたてる時代を撃つ3・12討論集会」を解放センターでもった。参加者約二〇〇人。この集会を契機に、今後つづけて釜ヶ崎差別と闘うことが話しあわれた。	釜ヶ崎地域合同労組主催、越冬総括集会が市民館で開かれた。	釜ヶ崎越冬支援総括集会が始めた。	釜ヶ崎越冬支援総括集会がふる里の家で行われた。参加者約八〇人。	釜ヶ崎越冬支援総括集会がふる里の家で行われた。参加者約八〇〇人程の人がパトロールに参加している。